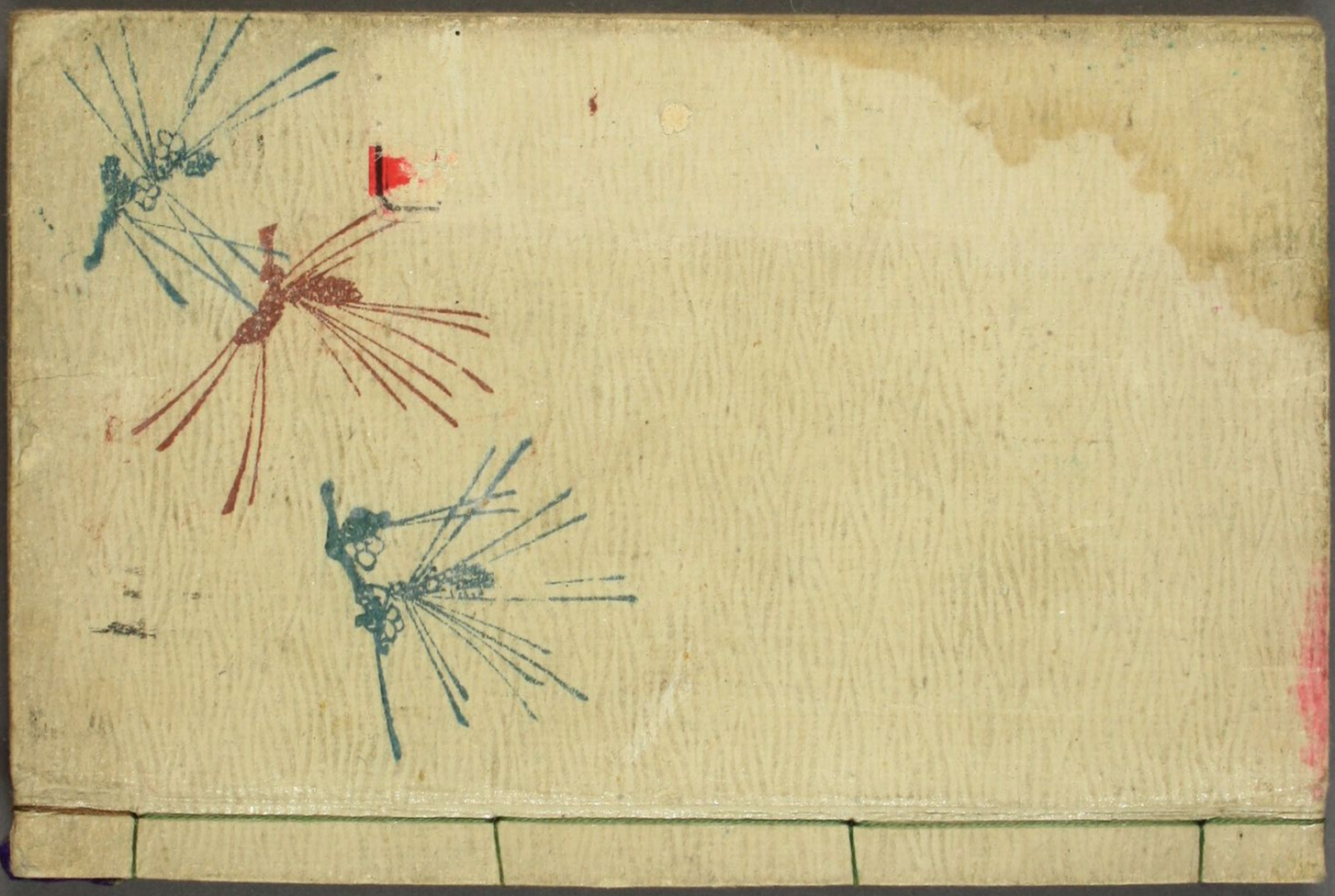

巻十二　恋歌　二

巻十三　同　三

巻十四　同　四

頭書古今和歌集巻第十二

恋の二

歌しるべ

小野小町

内閣文庫

中野重寿

おとにのみきくのしらつゆ夜はをきて昼は人めにかれぬるかな

○思ヒ〜寐ルユエニヤラ恋ヒイ人ガ夢ニ見エタ　其時ニ夢ヲヤト知ッタナラ　サマザマニオカウデアッタモノヲ　ヨケイナヲシテサミシテノケタ

うたがはぬ恋しき人を見てしより夢てふものはたのみそめてき

○イヅヤ一ツメ子ニレタ時ニ恋シイ人ヲ夢ニ見テカラ　夢ト

うくたるるげすよりあるをよく味ひ見るべし

のんと考へべし

うくる森ハ新寐ヘ傾ヨコロビ寐ト云フ初テキハ見ルコロヲ

ヤ夢ヲ初メテ云フモ

云モノハヨイ物ヂヤト思ヒソメテ ソトカラ又人ヤウ又人ヤウト
思フテ 愛ヲ教ミニシテ居ル
いとゞ長の字まあさ行のせめてハやま
ひさこと
五きぶよハ神の名と
あくまきるまよ
二ひてすぎこころ
妙の神さゝ志ら
夢よさきや

いとゞハめて恋しき附ハうぶまのよる孔衣をえーてぞ居
○衣ヲカヘテ着テ子レバ人ヲ愛ミル モノデヤトイヘハワレ
モキツソサレツツテ恋ノ恋ヲタヘラレス時ハ子ヘキラウニカ
テヲキテ子ル

妻性法師

秋風の身ヨ寒クナレバ法れまおき人をぞ恋むと恋でふ
○ワガ心ヲ人ハツレナイ人ナレドカ 秋風ガ身ニシデ寒ケレバ另

拾井抄二十五帖
上宝玉手下出玉
ヒカリ

法花経五百才子
品曰以無價宝珠
繫其衣裏与之
去ミニの文 補す
る附法紗ホ助も

クレバ 毎夜 モシヒヨツト見エルカトモフテ ワレハ
ソレヲ教ミニスル
恋ちつゆ消もでくふ人のこぶ（世シ名事）
のだ〜〜ものいひ（説法）ハ人ハ恋ぶを恋ふよ恋をめ
けこまちぐのとふつ〜ハる

あべのきよめまの朝臣

法ものぞる 神ゆ〜まるの風恋〜あハ人を見恋めの浸（ミヽ）ハ
○真セイノ談義ニトカレタカノ法華経ノ衣裏宝珠ノ事ニ
イヘサ ナボ袖ヘツ〜デモ タ〜ヲズニボレテ出ル玉ハ 恋トイハ

とる所にあつる程
寄しる所に置
ことにまたよまて
娘ら為るべし

ヲエヌヌ目カラコボレル涙ヂヤワイ

久し　　小まち

おろかなる涙ぞ袖に玉ハなす我ハせきあへずたきつせなれバ

○ワレガ涙ハ　又ミツケコツチヤナイ　トウモセキトメラレヌホド流レテ瀧ノ水ヂヤ　スレヤ　オミヘノソノ袖ニツヽシミヌ玉トヽ見エルクラ井ノ涙ハ　オロカナコトノ

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

藤原としゆきの朝臣

恋わびてうちぬる中に行かよふ夢のたゞぢハうつゝならなん

○オモヒモヘモアハレハセズ　恋アグンデ　スコシネムツタ夢ニ通ウト　通ハヌル夢ノスグミチハ　ドウゾホンニノコトデアレカシ　夢デコソズツト通レ直道ナレ　ホンニハ　ソレサヘハ及ビモナイコト　イツモ恋ワビテ居ル中ヂヤモノ　中ハ思ふ人らの中に整るを饒料子　神ろ中をとめ人ハならはでも恋しうるバうちぬる中に

これハ波のよるを夜に取る
ふかくにけて大序
あるハ古事子八首
居くまそおきこえ
とよあり
住吉ハこの詞をこく
するすもの也

ここえてあるべし（以筆）

すみの江の岸による波よるさへや夢の通ひ路人目よくらん

○昼ホンニテニカヨフ所デハ人目ヲハヾカルモ　ソノハズノ事ヂヤガ　夜ル夢ニ通フトアル所デモ　人目ヲハヾカツテヨケルヤウニ見

ルハ、ドウシタコトカヤヤラ

とのくすーき

○ロガ表ハミ山ガフルの草子れや表げさまれど表る人の舌先
ガサルケレドモ　舌ヒ五フヲ知テクール人ガナイ

きれとるのう

よひのまもなく夏中の草ハまれる表もすが

○アノヤウニ夏虫ヲトロウト思フテ飛ベテ　青角ヲモエタモ
タズニツイ命ヲトラレウとクルハ　キツイアハウチフ　チヤド思ハ

カワヒヤヌ此ヤウニ人ニアヒタイ〳〵思フテ表ニ身ヲレニウ人アア
夏中ノ火ニヨウノヨリハ　ナホ〳〵ツアリテモ〳〵アハウトケ孝
終村　よひのまれ流ゴウ

万葉ヲハ勝異殊
あの字をけとよく
くことをまさるう
美ろ

多ゴロ（信）ハ（汚）ハ　笛（味）ヨリ（ふ）ふのやれども　考ヒねがや　人乃（信）ま　ヒの美

○毎日タトカミナレバ　笛ヨリモノホフハ　ロガモヒルケレド　ワガ口

ヤウニモ元ヒハ　笛ノヤウニ光リガイ　ニヨツテ　ヒエヌコヒニ人ガワ
ヒイカレラヌ　光（むか）リ　ヒアツテ　ヒタラ　ヨモヤカウツレナウ人アハ、
イフガヤワサ

表きと又ハ袖乃
ことあり

さこの表ゆおく表ハ（しり）ものうも　ヒ表ヒ表ヒ表ヒ表ヒ表ヒ

上を所ふるくろ花
くろところ多く
新撰万葉ニまこの
くき多くすなわち葉の
間ニありてもあれども
ことばふとあらねども
の葉ニまぎれり

○サノ葉ヘ乃タ霜ハキツウサエルモノヂヤガ　ソレヨリモヒトリ子
ルワガ神ガサ　ナホキツウサエデ寒イワイ
ヒヾ霜の葉のくきねよりくまのきえ入りてぞ寒ク成ける
上イヤモリツキツウ〳〵キエ入ルヤウニ寒イワイ
餅村ヶ多メ〻ろふきこえろうの花ところ〳〵ばくこきこえ入り
寒さよりまどいふ数こゑ〻ろうれいろうて墓〳〵しき
どいふ行こ今世の強ふもおそろひこえくるまどおそ
くふと月ごとろうをや
いの葉こまびくまの藻のみろれて人まろれぬ寒もまるか

○川ノ淵ノ底ニハエテナビイテアル藻ノホニカクレテシレヌヤウニ成フ
人ニシラレヌ寒ヲワレハアスルフカナ
こぶのたゞ見ね
くきこゝ〳〵ゆふ雪の下消よきえてあやふころあもみろ子
○雪ノ下カラ消ルヤウニ　ワレハ人ニハ云ハズニ此ゴロハホニ消入ルヤウニ思
名ヒヲ(ヒ)アスルフカナ
君こゝ淺のまこふもちぬれバこをつゝこゝ秋ハあり
義系おきぬ
○ミヲツクシト上ニモノハ海ノ中ニ立テアルモノヂヤガ　ワレハ君ヲ寒シ

こをつゝこゝハ海の
うちふこゝろを水尾
ところそれは標の杭
をこゝろこつゝ助辞
はて水尾杭之延丸
式ニ難波津頭海

中ニ立ツ澤撫土佐日記
ヨリ出タルカ　ノ水ト
ヨリ雖波ヨツキテ
河風ヨ今ヒアリ

玉のをどろ八ハ
しの下ごこふまス
ア

ウ色フテ泣ク疾ガ　テウト海ノ底ノ底ニ千タヤウニ　床イツパイニ
ミチタレバ　ソノ床ニ子テ居ル口ガ身ハ　トシトソノ底ヲツクレニサ
ソタワイ　ソレテソノ口ヲツクレト云名ノトホリニ　身ヲツクレテレ
ウテノケルデアラウ

ハる命いきもやすくところこふ命のをどろ命人とらそなん

○トウテ　ハデ死スル式命ガ　着レヒヨツト生ビ上フモアルカ　物ハ
タヽシ　ヒヤニドウ　短イ玉ノ緒ノアビダホドナリトモ　チヨツト逢
ウト云テクレカシ

コビぬれバ　ハひて　ハれ人と　ハへども　ハそと　いふ　ハそ人だのめ　ハる

トツトモウ　ハニナニギレハテタレバ　ドウダレテ　ムリニ　ハ事ヲ　ハ忘レシト
ハヘ　ハ　ハニ逢ウト　ハルフガアルニヨツテ　又ヒヨツトアハレルフモア
ラウカト　ソレガ　ハニミニ　ハハレテ　ソレテ　ハハレモセネバ　ア、　ハタト云
モノハサ　人ニ　ハモレウ　ハハセテオイテ　何ニヤクニタヽヌモノヤ
あなた　人ごのめを　人ごのまれとあるハたゞ人ごのま
セとこそいふバ　ハ即チまセのつぐまりくるゝ

よこ人　ハくゝず

つゝ　ハくもねてもさめても　ハくきろ人とゞちやゝバ　ハ
○ナラヌコトヲムリニ　ハ　ハウニア　サテ〳〵　ネテモオキテモ　ハレイコ

新撰万葉ハ　ハろり
ハくゞ　ハ　ハてもさめて
ハ　ハくくくくくくくを
ゞちやゝて　ハれと
あり　ハ帳ハ　ハ上乃
句　ハれと　同ゞく

の句ハ[illegible]

トカナ　コレデハドウモタヽラヌガ　此心ヲド子ヘヤツタラ　此意ヲ
ワスレルデアラウゾ

○此ヤウニ意ヲレイノニ　トツトト雑義シハテヽ　モシヒヨツト魂ガ[illegible]ヨウテ
ドコゾヘインデシヽウタナラバ　アトハ此身ハムナシイヌケガラニナルモヤガ
ソレデモフ人ニアヒモセヌムナシイ意ノタセニ　意デ死タイト云名ガ残ル
デアラウカ　此の句ハ魂ハさりてなれ〳〵きろ〳〵しあるこそ
と意をすなくくむかし〳〵き意ゆゑ〳〵おしいかこそふい
ひけさるものを

紀貫之

○君ヲ意ヒウメコヲ胸ハ　必ヒ火ガモエルナレド　泣ク涙デケセバ
コソアレ　モシ此涙ガナクバ　衣物ムネノアタリハ　必ヒ火デモエル色
ニナルデアラウ

歌しらず

よどゝもゐ流れてぞやく淀川　冬も二ろ〳〵ゆこと形りなり

○川ハ冬ハ永ツテ流ガ上ルモノ多ヤガ　ワガ身ノコノ涙ノ川ハ　ヒヤウ
ヂウ流ニテカト上ル時ハナイ　冬デモ水ヲヌメボチヤウイ

二ぶくゝ[illegible]
ゝる火ちうこゝ
ハるゆる火の色雲
ゆ[illegible]をどうふを色
燃るゆ[illegible]といひ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]
やゞて火の色の名ア

六帖子書く云るの
わとぶりつゆ書きたま
ふくむしきふまう
め夢誌を　ふるふと
凡八

○手枕云、あふ事、なきを思の外にハ詮ありてをもひかとの
ミ詳ならされと、これをもてすなハち夜の詮法と見へ、又一あく字ハ
あまたくよめり、何とのよみてハ細く
ぞめ夜、あまとまもさとるべし

恋ゆゑ、あまたの夜や、おもひくんよるもすがら、通へる袖の涙（泪）くたくるかな

○恋ニ忍フ人ノトコロヘ通フ夜ヘモ衾ガオクヤラ　コヒトヨミ恋ニツイテ
カコウトノ袖ガ　ヒツタリトヌレテ今朝モカワカヌ　イヤ―ヨウ名ヘ合ウ
デハナイ　コレヤ涙デヤウイ

そせい法師

こひしくて恋ふる人を見る夜ハおもひこの床ぞくおきうかりける

○タベチヨツト恋ニテモ逢フ人ヲ見タ夜ハ　ソノ朝ノ床ガ　ハナレテ起（ヲキ）

六帖子書と云き
あのなをひもバりつきす
本書ぶくハかねて出て
さるつきし　云と同じ
こまるハいずれの前（辨）
おくん

ヒナイツイ

○いつもののなぐさありせバかりの衣のひも袖もなみだ（泪）にぬれぐるよ
かりそめのうぶあき

○恋シイフリヲシテ　ウソニ泣テ見セル涙デアラウナラ　随分人ニ見セ
ヨウモウケレ　此ヤウニ人ニ見ラレテハ　ソレクデキルモノメ袖ヲ汚
ルノハアルマイニ

ねぬ夜きてひち（泪）かへるとも来ぬ人もぬれおしむ袖ところぐつきへん

大江千里

○泣テノ此ヤウニヒツタリトヌレタ袖ヤケレド　モミ分向フタラ　春雨ニ

ヌレタノギヤトイハウ

ちゝめ紀の翁作

わがごとくあやうるしき附者ときどころおくよりこゑ呼ゝ

○時鳥モオレガヤウニモノガカナシイカイ時レホトレニ夜ルハヒタモノ

トヤウニナビ鳥クヤラ

佐くらもち

さつき山猪をくろこゑとぎ沢おくれ家をもとめ意ちまる所

○上注デバツタリ居ノ ウカノートレテ 心モゾロウ老ヒアスハ「カ」

五沢の内こ注ね

林ぶりのたるう附子きんりはたちの品のそくるもおりてそくるおく

○老ヲスルデハレル時モナイ心デハトンノ起居スルノモソコデうかゝ

メオボエヌ

高ぶふくゆ

雪のでこ老うよたてこハあうはぞるおそこのそこてトハあ(ゆ)

○人ノくハヲレノブヨセニ雪ノ行立ニ声ヨトニ人ナカヌケレドナイ(ヨウ)

デハ涙ヲナガニデバツカリリ アリトスワイノ

見反ふたの家れ奇金の奇

ものゝ人ゝ

六帖十八二の句とよ
ぐさまで咲るよみひに
の句とまでぞいれての
をとあれどもとるの方
よろしくこれらを
みなちいでて手也
よまし

秋なれバ山ごとよまで啼鹿のこゑおとろへやなかりぬると歌ハ

○ヒトリ子ヲ夕夜 オレガ泣クハ 秋ヂイハウナラ 山ギハヘヒヾクホドニ

ナク鹿ニモオトラウカ オレハ鹿ヨリナホキツウ泣ク

秋なれバとそ秋の物としてたとへらしもてらいふ事也

あきバとくもあるまじ

欲しらず　其角

秋の野にみだれて咲る花の色の千種にものをおもふころ哉

○[上] 此ゴロハイロイロくせノ事ニ心ガミダレテ ナニモカモノ思ヒヲスル

こうね　一字

稲葉の風によふれて
ともしとみる二首と
これよりひるけう

千代の松をとるべ
まさきとみな

ひとりして物を思へば秋の田の稲葉のそよといふ人のなき

○ヒトリ物思ヒニ秋ノ田ヲヒラレテ見テ居ル二[三]タヾハソレヨ御多

リヨトモテクル人ガナイ　ひとりしてハひとりりんで思へば

その事ありてこそわかきひとの事

おとや

人を思ふ心ハ雁にあらねども雲井にのみもなきわたる哉

○人ヲ思フ心ハ雁デハナケレド 雁ノ空ヲ鳴テワタルヤウニ ナニモカモ

ガ心ハ ウカウカトウハノソラニナツテヰルヤ 泣テバツカリクラシテヰルワイナ

雑材二三の句は良ひぞとあり。さはじめの事ハあしあ

琴擬秋のよすがを
しづめていふ也とぞ
うきことの浮は琴のね
みだるゝよしなる
或抄にうきをこゝにすそ
うき事あるによそへ
手引の字を見る字
ともすゝしとあり

実意の読に取る事はなきなれ

たかきね

（一）秋風にうきよの琴の声さへもなくなくなく人の心にぞあるらん

自身トキ引ナラス琴ノ声ノ秋風ノ吹クニヨリテ聞ユルニテ今ガ琴ノ
イカヤウニ引ヨト云フ事ニテ 手モ無ニ哀ニ聞ユルハ ドウシタ
コトジヤゾ

この手秋を浮に自身にひきならしたるに自ずから心もとなき身をしかなしみて
おもふに其ころはこゝろからうちながめてなみだをおとしける
つくるうきさればうきの琴のねはいかにかなしきひとのうへにもきこえて
かなしきて自身とみえしを琴にきけるかのなげく あはれ
きゝても見えず
はらから

常にとはよまさるとも
きん序ん
哀の其事は八実やも
そらんとあり

ふかきゝ

山ところ淀の[illegible]雨ふれば つねよりもまさるちごこひ

○二 雨ガフレバ ウツトシウ物サビシイ故ニ ツネヨリモカクベツニ
哀ガマサル

やまとにはなくなく人ぞつかへける

こゝろにはよし野の山の桜花ひとつてものこ実りらしきもの

○ツチノ大和國ヘマダコエテイカヌウチハ コヒタイ／＼ト思フ吉
野山ノ花ヲ 人ノハナシニバカリ聞テクラスヤウチモノデ 大和ニ
ゴサルオ方ヘハ[illegible]ガツ子ヅ〻 哀ニ思フノモソノトホリヂヤ

和らびハ和のさま
ひろき（ど）延く語
あり　からに歌よ
まさるとき人おほ
べし　せうそこハ消
息にて　むかしハ人の
生死に語とう
つしく安否をとふ
ことあり　又ころし
て文をやることと
いひ又さぶ人に物と
ぞることとふもいふ
ことあり

アヽレンキナフカナ

和句ハあハぬまハしのびにいひわたるかな

やよひばかりに物のたうびける人のもとに又人（又外ノ人が）ま
かりてせうそこすときゝてよみてつかはしける

◯露ならぬ心を花におきそめて風吹ごとに物おもひぞつく

◯花ニハ露ガオクモノヂヤガ　ソノ露デハナイワタクシガ心ヲ　オモヒ
花ニオキソメテ井ルユヱニ　風ノ吹クタビニ　花ガヨソヘチラウカト　ソコハ
心ガツイテサ　物ヒコトガゴザル　ドウカヨソヘチリサウナモ　ウハサモ　チラ
トウケタヽハッタゾエ

山の名をくらぶるによそへしのみ
ながれてハこひわたるて

題しらず　　坂上これのり

我恋ハくらぶの山の桜花まなくちるとも数ハまさらじ

◯暗部山ノ桜花ノサイテウトヒニモナヒニチル数ハオビタヽシイコテ
アラウケレドモ　ソレガシガ恋フ数ニクラベタナラバサウハスマイ

むねをかのおほより

冬川のうへハこほれる我なれや下にながれて恋ひわたるらん

◯ワシハ　ウハツラハ氷ツテアル冬ノ川ヂヤヤラシテ　其氷リノ下ヲ水ノ流
ルヤウニ　外ヘハアラハサズニ　心ノ内デ　長ノ月日ヲ恋ヒワタツテ居ル

たゞこひわたる

上句ハ[illegible]
事あり

浮草ハ[illegible]
てくるのを見付てゐる
きゝハのつまゝ[illegible]
あのゝゝやくもも
ひるてハゝゝこゝろ
ゐよあれぬとぞう
ちのびきゝる

たぎのせふねざゝとぐらぬるき孝の[illegible]ゝ[illegible]ハすゐ邪

○早イ川ノ淑ニアル浮草ノ根モトノ底ヘツカズニウイテアルヤウニ

ワレハウイタ恵ヲ一アスルカナ

ごゝをのせ

よひくよぬきて[illegible]ぬゝゝ衣ゆけて[illegible]のまも[illegible]

○上心ニカヽツテカタ時ムモ忘ハヌフナイ

ゐぬぐゝ
いふゝゝ

[illegible]ぬぎゝゝ
ぐぬゝハぬゝとて

東海のさやけ中山おろくふ伏ゝゝゝ人をおゝひゝゝあけん

○アハレモセヌ人ヲ一二ナセバカニナセニ此ヤウニロハズレソメタフヤラ

あきたゝ八冠詳あり

あきたゝの枕れトふ海ハあれど人を見るめハおひずゝ有ゐ

○一枕ノ下ニ涙ノ海ハアルケレドド恵ミイ人ヲ見ルメハサハエヌフ[illegible]ヤワイ

年をへゝきゝえぬゝひハあり昭ぐゝよゝれ秋ゐ[illegible]ぼゝ[illegible]

○何ノ年カキエズニモアルゆヒ火ハアリトガラモ夜ルノ[illegible]ソレデモヤッパリ

袖ハナミダガ水ルワイ ゆヒ火デトケリウナモノ[illegible]ヤニ

つゝゆき

家恵ハ恵ゝ雨山孩よあゝまくふゆどふんぞゝひゝゝイリルゐ

○ミラヌ山ゐコソ一ヨウモノナレ ワレガ恵ハミラヌ山ゐデモナイニ此ヤウ

三ヨウ心ハサツライナギナ[illegible]ヤワイ

家集ハ三の句ハ
ちなゝゐ六帳ハト
の句あゝゝんの[illegible]
ひゐぬびきとあり

これもあれかり出つ示くく淺よ夜秋のミこそ色まさりけれ

○声ヲアゲテ泣ク血涙ノ紅ハ メクタビニ 袖バカリガ 色ガ スワイ
ツチニ紅デ衣ヲ染ルハドコモカモ同ジヤウニコソ染メルモノナレ世ヤ
ウニ袖バカリ染メルモノデハナイニサ

初二句、夏の歌よりくれなるの
ねのかり出てぞ鳴くと有るをこゝに異ぐこの音ふきうる
紅といふよ用あり。 かりがねハ紅をふりおくく染ること也。
声をあげてくるくるふうねこう。 終行四の句は流
白玉とうくこし後も年ゆかばくるくまでおあさうろひまり
○始メノホドハ白玉ノヤウニ見エタ涙モ ダンダン年ガ入ルニツガイニ

[illegible]集よハまのゐる
[illegible]

色ガカハツタワイ

こうね

夏虫を何のゆゑぞ人のうくるもゆるもこひ[illegible]

○夏虫ノ火ノ中ヘハイツテ心カラ身ヲモヤシテシヨウフ エミカイ
オロカナコトデヤトハ ナゼニスダヤラ 夏虫バカリデハナイ オレモ
通リ心カラ恋ヒニ身ヲヤシテノケルデアラウヤウニ思ハル、

いぶ[illegible]ね

上ハ序ヨリ出て絶て
つれなきこゝろなり

思ふ人ハ峯ヨリ高ク思ヒ
○上 サテハ井モナイ ケシカラヌキツヨイ 君ガ心カナ

その前投きニすやさ
こびえくにの句ども
哀人も一あり
今作ニハ投不申候
と云歌ニ入ル

月かげに我身をかふるものならばつれなき人もあはれとや見ん

○月ヲバ 想俤 人ガアミハレトオモフテ眺ヘルモノダロウガ ヲレガ身ヲ月ニカヘラルヽモノナラ カハッテ月ニナッテ見タイ ソウナッタラツレナイ人モ見テアハレカアイヤトオモフテクレルデモアラウカイ

ふ子んをはけなる流きろし月かげふかぶ月之

鉾持彰とい

ぬかやぶ

あひ見まくほしさ名はたゞしよの中にけつねにきおといひへかなすとも さ丸

○ワレガモミ此通デ恋死ニダナラバ ツレナイ人ハ 深養父ハカワイーヤ ソレユヘニ死ニダトハイハズニ 夕ヾ一通リニ世中ガ無常ナ物デ死ニダデアウ

ニ云ヒナレテオクデガナヤアラウガ タトヒサウハイヒナスヒモ世間ノ人ハヨウ知テ居レバ 外ノワケデ死ダトハ云マイ 君ユヘニ死ダト云ヒフラシテ君ガ名ハ立ッデアラウ

貫之

津の国の難波なおしのめもはるにしげき我恋人しるらめや

○難波ノ芦ノハルカニ見エル所デ 此ヲリトシゲクウハエテアル如クニシゲイ此ワレガ恋ヲオモフ人ハカヨウトハ知ウタイ コレホドニアラウトハ知ルマイ めもはるとよめるハめもはるかの事の

ありし芦の芽又張ル事との事ハなし

弓ゐおきうとこを
ハいゐ〜ハの弓ニ射る
さまハくるこうう
左のごときさまでゐふ
やそひきハまちおこ
〜ぎどせ〜よりゐ
こうおきふ〜のと
をよあうぶ左ゐのふ
多〜

手もあれで月日（つるる）あ〜ま雪おきう〜とうハいてうこねい
まつね
○弓ヲ久シウ手モサヘズニオクヤウニ　ゐフ人ニ久シウアハズハ其人ノ
コトバッカリゐフテ　夜ルハ子タリ　オキタリシテ　ヨノメモサナラハヌ
ワイノ
人ニあれぬゐひのこころそひび〜ゐれひぶ歌きをバ歌のこぶら
○ゐフ人ニ知ラレヌ恋ボリナギナコシタモノハナイ　世ワニガ鈔
ノヲバ　ワニバッカリガサ知テ井テ　ソノゐフ人ハ子カラシラヌギヤ
こるけり
とゐ恋ていそゐバうぞこうるせ河の恋さよ直ひて恋〜きれを
○ワニガ恋ハテ　水無瀬川ゐハバハ水ノナイヤウニ見エテ下タ

ノ方ヲ水ガトホッテ流レルヤウナモデ　討ニダシテイイ、ヌトスバカリ
チヤイ　心ハ、ヤウ、ヤウゐフ人ノトコロヘ通ウテ恋シイモノヲ
只流ね
君をのこゐひねよね〜夢ふれバひろぶんや〜只つるふ〜ろう
○オ〜ヘノ〜バッカリヲゐウテ寝テ只タ夢ナレバ　逢ウト只タ
ノモオ〜ヘノナサケデハナイ　ソガ心カラ只タノガヤワイ
たゞ只ね
命ゐもよさうてを〜〜あるねハ只そてぬ夢のさゐるこ〜ろ
○イノチホド惜イ物ハナイ　ソレヨリ〜ダ惜ウゐハルモノハ

赤集まむう〜ねさ
どゐひ〜女のまく
あり〜ふバあう附ぶ
この夢ま只ゐて伝
らでまあ伝うあ〜
うぶとあうて紅ゐ

ヨあり

是ハ芳を引ハ歌
方ヨ本末のまろ
かめ子ルバ多ヨ教
と言ひて上ハ序之

恋レイ人ニ逢ウトヲ見ル夢ノ〻ダトクイト見テレハヌウチニ早ウサ
メルノ〻ヲ惜ヤウイ

そろこちの法〻き

あづさ弓ひ〻バ本末ヨ〻たふよ〻ろそまさル恋のんを

○昼ヨリモ 上 夜ルガサカク〻ツニ恋シウ思フ心ハ〻サルワイ

こつね

恋ハ色〻くへもあらぬ尽とても思あふをうぎりと思ふ〻りぞ

○ワシガ恋ハタトヘテイハ〻ア〻ライクニドコヘイクヽヤラサキモシレズ
ドコニテイトヲカギリモイヤウナモノデドウオルコヤラチカラサキシレ

レヌコデタヽアウノライキドミリトホフバカリヂヤ

ちられのこゝぞツまーくり彦星もあハでる思ひる〻年とあけれバ

○世中ニオシレホドサカナレイモノハナイワイノ 彦星ノ恋ガ一年ニ
多ツタ一度ヅヽナラデハアハレヲカナレイヤウナモノナレドソレモ年
ニ度ヅヽハチガヒナレニ逢ウガアツテ一年モアハズニスギメクリハナ
ケレバワレホドニカナレイ恋デハナイハサテ

ふるやぬ

今ハヤ恋ゆゑあひ見んと新めてとぞ命あり〻る
モウハヤ今ゴロハ恋死デモシウデアラウニイツヤ逢ハウ

ト アキラカラ約束シテオイタノガアルヲ教ミシテサソレバ

カリガ命デ一ダカウ生テ居ルワイノ

足つね

たのめ法こあハで年ふるいつもりふころぬんを人ハあくまぶん

イク度カノ〜逢ハウト約束シテ教ミニサセテオイテハ アハズニ

何ニ年カタツダミシブニコリズニヤハリタクミニ名フロガ心底

深イトコロヲ推量シテクレカシ

ものの

いのちやハ何ぞハ惜ハあだおもあふ人ハをしくを形くふ

頭書在今和歌集 巻第十二

合 カサ何ニチヤゾイ ホンツヲヤウナアダナモノ チヤモノ 逢フニ

カヘテチラ コノイノチシテウハヲレイナ ハナイ

夜ハ移恠と附と用ゆくまるをこの集

よ移恠ら云ふまりして

入りとやとも不重

ことおいやる逆しも

もあれバうすぐい

ゲ〜きこそ

恋歌三

やまひのついでにこちよりあのびゐ人はまことのこいびとなり

ふるのそでふりはらはまことつれなしけり

本系業平朝臣

おきもせずねもせでよるをあけぬるのものとはなしにぶるあくがれつ

○オキルデモナレマクルデモナレニ　ウツラウツラニテ夜ヲアカシテ又翌

ニチ　此ゴロ空ノヤリカタ　長雨春ノモノデ一日ナガメテレニキニカヘテ

クラスギヤ

おらのやらハまぐこと
ゑ用ゞく助りかぐこ
他をゑゑ又ハこのと
とさぐうまいまあま
も用ハ羽あり

ありひくの朝臣

つゝみ〜る

これもとゝ者ゆ和歌の歌めをあらう

浮北くの歌あよまる涙川そぐくのこゆれてあふよ〜もほ

○ウチズ〜テ日ヨリハツルミ　月長シ　ヒマデサビシイミツ夕ハ　イヨ

イヨシレニキデナガメヨレテ　涙川ノ水ガ一シレテ　袖ガヌレルバツカリ

デシレテ川ノ水ガ一セバ渡ラレヌヤウニ　逢ハサウナモヨウモナイ

名ハ女子カリてゝ〜まある

ふるひくの朝臣

ふるこゝろ袖ハひづくめあるぶ河ゆ流るゝ涙ばたのまん

袖カヌレルオツシヤルガ　ソノヤウニ涙川カ浅リサニヨリウテエラウ

ンデバツカリ　ヌレルグラ井浅イノデハ　私ニナリ一セヌ　身ニデガ

流ルルオツシヤルニラ井涙川ノ深サナラ　ソレデハ頼ミニ成ルニヨリウ

餅材お変ゆ　ゆの白れ流ろうし　多ニハ多くるとハ　ゆ神の

ニひつくるまりハ　ふるこゝろ　ふきことをいつくるのくにたとハ　ふるこゝ

ハ　ふ〜

影〜ら尺

ときハ　ふくず

よるべ　ふるこゝろをとゝをくべてつれハ　ハ　表ら　新と　ふ　ふき

近ウヨルテスヂガナサニ　身コヨカウシテ遠ウハダテ、居ト　心ハ　ヨウ

よるべハ寄ることなニハ　ふくこゝろ　ふ

ギヲオモハヌバヨハケレハセヌ　影ヤウヒドロキ　カラ心ハオモヒニスウニ居ル

餘材ホ古ハよるとの心ふてとよるべとのろくくるハのゴ

ありさるとすゝ引ろう方葉のまれバ可のことあるを

ゆるあやまれるかりかり

いさづらふ行てハまぬるれ也多くまくれしよふいざるハれ

行デハダニカヘツテクルモノクセニ逢ヒタイトカウ心ニサハレテハ

又シテモイキノースルワイ　ドウニテモトカク逢ヒタイニ

あハ板のふるもろ雨とと持くるべ和きこまるはぬべきれを

雪ノツモルヤウニ逢ハヌ夜ガイク夜モ〳〵ツモッタラソノ雪ノ

あるまハおあるら
ふるりの山ハいせお
ぐろうまてハ伊ろ
つくりとるれバ維
ヰ一ヶ所ヨ人まろ
のあとヒ〳〵いぶ
う

ヒエルヤウニワレニデガトモニ消ルデヤラウトカハルモノヲ　サテモアハレ

ヌレカナ

此方ハあるる人乃いたく林ヤ人まろ多形ノ

おろひろの朝ハ

秋の野ホ篠ヲ〳〵あきの神ろもあハぢこつよぐひちやまろ乃ろ

○秋ノ野デ笹中ヲ分チトホツテキタ朝ノ神ハキツウ手ヲ入レテルモ

ノ引ヤガソレヨリモ心ノ人ノ所ヘイフエヤハズニドツテキタ夜ガサ

ナホキツノ涙デ袖ガヌレルワイ

山路小町

ふるもろ
ぐろうず
行づくひちろ
人ろまろ
ぬものろ

上の句ろこつて
者ホふるこぐさい
ホ涙とろ袖

これまでハ別ふすぐ
の上思ひこふで八
絶ずといふ殊のめ
とも覚べし

見るめなき我身をうらとしらねばやかれなであまのあしたゆくくる

○海松メノ無イ浦ヂヤト知ラヌカラ ヨレラズニ 海士ガヨルヨル断ラウト タアフテヒタモク来ルヤウニ アノ自分ヲ ワガオヲ ドウモ逢レヌ身ヂヤトハ知ラシャラヌカシテ 一夜モカトラズニ 足ノダルイニ 毎夜々々逢ウトモ來テ見エル トテモアハレハセヌノニサ

初二句の言ひかけしよの流るる人多し 是ハ春のけて照れどもいまだ乗ハ知りつらと見る数多く詞を下上ずあゑしても皆べき様に我身を見るあるき浦とおもふねがやうふことも見るめなき浦とハ逢がたき事をいふ言ひ浦ハたゞ見るめ不あるの詞の事にきれバ我身をすらうむことも又ともいひつるかはかぞさて後すなら身のうきとよめる事の多きにもかの者れ詞をよめるもの形見。

源宗于朝臣

あはずしてこよひあけなば春の日の長くや人をつらしと思はん

○今夜ハ逢ヒモドウゾテ ニーロフタニ 又トウクエアハズニアカシサウナ 今夜アハイデハ モウ逢ウマイ 附御ハナイニ ヒトホリテエアハズニ夜ガアケタナラ 春ノ日ノ長イノニ シミシミト恨ミテ イツ

ニデモツテ人ヲ〳〵ト云フテノ一生ヲタテルデガナアラウ

有明の清れすくさをしおれもく暁ぞうきことのもの思ひ

こぶのうぐひすは

○ミヘカタ女ト暁ニ別レタ日ニ有明月ヲ見タバシキリニアハレヲ

モヨホシテノアミアノ月ハ夜ノアケルモシラヌカホデアノヤウニガシト

ルリトシテノ月ニオハ夜ガアケバカヘラネバナラヌイトテノコリ

多イトコロヲ別レルコカヤトカミシヾくしホシタガ其時カラシ

テヨミ暁ホドウツライモノハナイサウニカラ

餘村ノ白ヲオハヒ〳〵くうるさくとやるもあの入リゴこ

ろふかつるもひかつるもところ〳〵顯ほの如く達てとろれとこそ鳴る

ところふ入れるまゝ、ものところ成あやまるる形ノ矢帳も

あの集よりてゆやまれ

あやまハくのめとかさ

あやまくのめとかさ

○浦ノ波ハタヘヨリテク波ノ浪ノ手キヲ引ラ沖方カヘルヤウニ達ノモナイ

人ノ所ヘイクヤウニハイツデモソノ人ヲ恨デハガリサカヘルワイ

ようてより風よさきたろう波あれやあふとるぎよまぐきこそ〳〵

ろふふかつるもひかつるもところ〳〵顯ほの如く達てとろれとこそ鳴る

ところふ入れるまゝ、ものところ成あやまるる形ノ矢帳も

あの集よりてゆやまれ

あやまくのめとかさ

○浦ノ波ハタヘヨリテク波ノ浪ノ手キヲ引ラ沖方カヘルヤウニ達ノモナイ

人ノ所ヘイクヤウニハイツデモソノ人ヲ恨デハガリサカヘルワイ

ようてより風よさきたろう波あれやあふとるぎよまぐきこそ〳〵

こそ六月ヨリ考ヘル名とづくるヨリ流と又

むすナ

六月ヨリきくそよ

てこそ波の縁のそ

づみよう其波もこそ

よるそへてゆふ〳〵

上ハ名ヲ立テ、ソレ
ヲ人ノ心ニ日本紀ニ
貴ノ字ヲ書ハ名ヲ
ヲ人ノ貴ハ名ヲ
ヲ人ノ心ニ

○マダ逢フタコトモナイサキカラ　早ウ名ノタツハ　ニテアルヤウナラ浪ハ
凡ガ吹クニヨツテタツモノヂヤニ　マダ凡ノフカヌサキニ　ヘカタカラ
ナギニ浪ノ立ツヤウナ　おカレラヌ　たセコヘヤウニ　ダ早ウ　カラ名ノタ
ツコトヤラ

ぐ又名

こちのくふありといふあるこ名川きき名とりてハこ名ヲ
ものもよくてあぐき名の立田の海ゝてやまんあるゝ名くふ

○上ナイコヲスルテ　名ヲタテラレテハ　メイワクナコトヂヤワイ

こゝろ〳〵のありすけ

仮撰集ニハ大つぶ
ねあるのくびつくハ
しらくとを更ニ人し
ざりくれバつゝ水ク
ゝ見ニ親ヲ大ク
おぼやこゝろ名のを
うくんむゝのつまと
人ますゝうくんゑ夫
つ妻在原業平女
とありてこの歌
りえ方ニ大つねも
とるゝ撰ぬあのま
あれバ氏集ニハ元
方の神とゝ姉とう
ありつくんを立ま

○マダ早ウカラ此ヤウニ名ノタツハ　ワケノタヌコトヂヤトテモカウタヾ多
タカラニハ　ドウシテオリトモ　逢ズニオカウモノヂハナイ

をとゝ〳〵

人ハいき名ハきき名のをゝ〳〵名ハ長ばあり〳〵と今も名ゝ長とをいたん

○人ハトウアルカ　ワレハナイコヲスクテラレル名ガ惜ケレバ　ヘカタモ今モン
ヂナコトハシリヘセヌトニハウ

よこ人名ゝ長

ありゝず数ヨスルもあき名ハ立ぬべ〳〵人ゝ〳〵数よあ〳〵ま名ゝ

○ヘカタモナイコヲ　ニモ立ラレテ　メイワクシタコトカアツタガ　ソレニ

[illegible]

リモセズニスドヤラ名ヲタテラレウヤウと名ハレル世中ノナラヒデ
ニクウナイ人ガアルデサ

ひむろ〜の五條ろくろ水人と者ありおきてまろうかもひ
ゆく者のびかるこころ　あり〻れば名ごよあまっことえ
いくでうきのこづれよりかよひいるるをこびろさ形ノ
ゆればあるこぐきくつけくかのろまよどこ水人をふもて
まもらすれハいきるれどうあえぐくのこころりてとき
ろくやまろろ

ありひろの歌

人者れ数ろぶ夏ひぢの関ちハよひぶとふちもおお形ん

人〻れ数ハ人ま者〻
七夕の約めふろべ
〻夏知〻ハあるこい
ふべ〻

○人ニシラサヌオビガ通ヒミチノ関所ノ番ハドウゾ無夜ノヨヒノ二
チヨツトナリ正子ムツテクカレソレタラソノ百ニハイラウニ

歌〻ろべ

ゆ〻ろ四き

者のぶれど者〻き用ハあ〻引の山より月れいでこころくるまま

○ズイブンカクレラブケレドモキツウ者レイ月ニハ　エコラズニ月ガ出テ
ヨウカエルニ　此ヤウニ出テカクルワイ　又三日の夕ハ宵ニ出テ乃
序のこころるすべ〻

ゆ〻ろ人〻〻ろべ

こひ〻てあれホニアはひハあふ板の文つげ者ハ嘆ずもあ〻ま

○ハツハイ・ホツ〳〵テタヾ〳〵コヨビ始メテサ逢フタメニ ドウゾ今ヲ夜ハ庭
鳥ハアヽイテクレヲバヨイガ 鳥ガナバヽキテ別レヲバセフヌニ

をのゝこまち

○秋ノ夜ヲ長イモノ ヂヤトヲモ名バカリヂヤワイ タヾ〳〵惜シイ人
ニアウ夜ヽ〳〵ハバコヽガカウヨフモナレニ ツイ早ウ明タモノヲ
ナニノ秋ノ夜ガ長カラウゾ

元河内ノ

ぢ〳〵ちるもひさしてぬ著ものあふ人ゝゝの秋の夜ハ

此所集ニハあひと
あハバとゐたゝこうゐ
あてハバとゐ達とゐ
バのゝ名ゝ

○秋ノ夜ハ ダイ長イモノ チヤケレ ドアウ人ニヨツテ秋ノ夜デモ
ミジカウオホエル物ヂヤート 昔カラモヲトホリデ 此節ハ秋デ夜
長イ時所ナレ ヌイタ人ニ逢タ夜ヂヤニヨツテ 長イ ヒサ
ドウモ ヒキハメラレヌ

もとゝ

あのあけぬるゝ〳〵とあけぬるバおのがきぬ〳〵ゐるぞうき

○目ガサメテ 夜ガクワラリツト明テクレバ ツヒヲツテ ヲテ居タニ人
ノキルモノガ別ニヨツテ ワカレルガカナシイ
餘材きぬ〳〵の新いさゝろたぐり面こそうきまるをきぬ

あのあハ夜ものあと
ハ言ふく明ぬそ
らの月〳〵きも

ぎゐとハいたゞき。手枕。結句。脈泊本おきるぞうゐ。
きとあくるぞよ。ゆうくるべきあくるぞハおぐやゝなるべし。
や。密勤さ。又書写のあやまりまやとのうまくるべきるぞ
けと。ゐ。あくるぞ乃ことゐ。

養原國経朝臣

あくるぞ。て。今ハのゝ。ほくうふあどくいあくるぞひそふくん

○夜ガアケタト云テ サアモウ別レルガヤ。ト。ヤ。心ガツクカラ云テ たゞ
三此ヤウニ イフテイハレヌ。ガソフコトデヤヤラ
意平ノ朝きさいの宣旨 今の宣

六帳ま八平陸天
淳の宣旨平陸大
尾八附平ゆゑり
ゆゑ。ゆゑ八附ゆる
きゐどの宣旨ゆゑ
ふゆり

二ヲキコエルハニヲキコロ
すぐゝきこゆるまこ云
ゆ。こきちくゝ稲こ
きこゆるどくゝゆゑ八
ちうゐとゝいふ心

ゆ陸まゆゑうまあ
ゆゑ陸ゆゑゝゆゑ
んあけぬうとゝゆゑ
ゆうゝふ

あけぬとて久ゝゐゐまハこきこゆゝてあめも浪もゆうそゐちゆゝ

ゆゝ行朝臣

○此ヤウニ雨ガツヨウフルノニ 夜ガ明タ。ニ云テ 別レテ帰ルノデハ涙
モ雨ト同ジヤウニモノヲコキオロスヤウニヒタ〳〵ト落テ イヨ〳〵ヒ
タリ〳〵ヌレテ サテモ〳〵カナシイノギナコカフ

鈴しゝず

○ 高

○ 目ガサメテ別レルガオゴリラ。ト。ニ 雞ヨリサキヘワレガサ一ジ泣キハジ

メタ

玉くしげハあけくれといふ冠詞あり

時雨降るころあさぼらけ　よこと人あくび

○三　オキテ別レタ暁ニ今降ル雨ノ音ハ　ウツ我ヤカ　オボエヌ心ガ乱レテアル三月二十日　お文よろし

よゞハいろ〳〵

玉くしげあけくれば君ぞ名たちぬゞこ夜深くこゝを人見るらん

○一　夜ガ明テカラカヘツタトラ　人ガ見テ　君カ名ガタヽウトムツテ

ゞ夜ノ涙イウチニ別レテキタガ　ソレデモモシ人ガ人ハセナゾメ

ラマ

大江千里

けさハ一しほおきくるしくもあるかなこゝろ乱れてものゝ思ひ

○十八日　別レニ心ガ乱レテ　ドウシテ起テキタヤラ　ヒカラオボエナン

ダガ其事ヲ思ヒダシテ　今ヲキヒルヤウニカナシイ

お文日記の流あれどさ夜でハおく〳〵ド

人ハ来ずくく朝まもそつゝ〳〵

あさまあく九月十日

ぬぬる秋の夢をたゞまぼろめばいやもろ見あも成ゆさるる形

○ユベ逢テ来タハ　ドウデアリタヤラ　夢ノ如ウデアリ　ハカナサニ　ヒヤ

業平の保男子にて朝のこゝろまゐらせのまよひいせ物がたりかりそめの使の君にあひそめてたびまよひのあはれ古ことを見ず

テハホンニ夢ニテナリトモ一ツイチド見ヤウト存ジテ　眠ツテミレドモナラレニ
致サネバ　夢ニテハヱ見イデ　サテモ〳〵イヨ〳〵ハカナイコトニナリマスル

業平朝臣のいせ物語にまよふ人のよく見る所あまの宮子
まよふ人はいとゞこゝろまよひて又のあふこともなくやる
すべきにて恋ひとりねる女のこととよりた
二セとりぬる　まよへしらず

君やこし我やゆきけんおもほえず夢かうつゝかねてかさめてか

〇 タベノ夢ハ　オマヘガ内ヘ　ワシガ方ヘ　オイ出ナサツタデアツタヤラ　ワレガオマヘノ方ヘ来ツタデアツタヤラ　又夢デアツタカ　ホンニノコトデアツタカ

とさまく世人とは
さだめよまよふか
たし

眠ツタ内デアツタカ　目ヲサメテ居ルウチノコトデアツタカ　ドウデアツタヤラマルデヤヘナカラ覚エマセヌ　オマヘハドウヂヤイナ

返し　なりひらの朝臣

かきくらすこゝろのやみにまどひにき夢うつゝとは世人さだめよ

〇 サイナヱ　ワシモ心ガクラガツテ　闇ノ夜ニ迷ヲイクヤウデ　ドウデアツタヤラ　ワレモオボエマセヌ　夢デアツタカホンニデアツタカ　トモ
人　世ノ人ニ定メテモライ

影しらぬ　まよへしらず

ふじのやまのけぶりはさこそあるらめ夢はいまさらまよふをばかりなり

○ 閑イ人 チヨツト達多ハホニノコトデモ タヽ上タ麦三伺ホドキニカツ
タコトハナイワイ 麦三ハ人タトハジクラヰノイデカツタ

さよの子ヤあまのを場る月ぶのあぶを名を達ろうるる

○ 上 君三達アノサモ〳〵ヒクリオカツタ子

三の白れよハの乃あやまりあく上白ハあぶの庫あぶ

〳〵麦よ御ぶ〳〵

名ぶ名も左でぶ雑波あるこうとも〳〵るるあひきるる

○ ドウヤオニハ名モワガ名モタヽヌヤウニセウ ワレニ達タトオ

ヤヘモイハシヤルナ ワレモオヤヘニ達タト上五ハイホドニ

あひきハ雑波の縁ヨ網引おのひよせくるあり

名ぶ名川ぜのうもれ木あるハ名ハバワホセンとろ達ハるあけん

○ 二 世間ヘヒテ名ガタツタラ ドウセツトカフテ達ヒソメタラヤ

よ抑川名のハ名をくとん滝の音ハたてぐるとぞおりふ

○ 吉野川水ノ早イサヲニ心ハヤルセヨウカフ在 瀧ノヤウニ音ニハタラ

マイトサヲニヤカフ

高〳〵ハ高さを名くひろさきの振ずりの衣色ヨゾ名ゆめ

○ 高ニヨ名フ古ち心内デ名フテ居タガヨイゾ 三四 色ニダラズハ

ナイゾ カナラズ〳〵

名ぶ川陸奥の名呼ぶりうもれ木ハ久〳〵ぶりれたるあるり人のうもれ

あるどもぶり しあのうとハ水中とえ

ぶどくさてぐうろ乃〳〵のうと

四ハいまりめやさめるどうれとつぶ

うと

ニアルハトヨムノカ
ガフレシトコロノミ
サテアルスキニ横ハ
ハデニコツクヒトヨ
ワ組トシテ結ハ結ハ
レタノフトヨリヨ配肆
ヨリ左ニアルキヨウ
ノ作ノ

なすきわよ出てこひハ名を惜こトやふ組のはずおれつ

○アラハシテ名ヲタナラ 名ガタツデアラウト ソレガラシサニ心内デ
バツカリ名ヲテ ムシヤクシヤトシテ サテモ苦シイ恋ヲスルノデ
ヤ お宮下ロカ組の流俗
たちだるのきこも死ガ恋のびまもひ恋ガ
女のもとよりおこもたろうろ
もこ人しらず
ふるどちひとりゝゞ恋しゝゞたれふもこて後衣きん

おかひあまりてのち
たあり

カウムヒアリタダウシレ内ニオヨシカワシカドチブ 一人ガ若シヒヨツト
恋死ニダナラ 服ヲ着アウナード 表ハレタ夫婦デナケレバ 服ハキ
テイチヤガ 親類内ニ誰ガ死ニダニヨツテキルトシテ 服キタ
モデアラウ 餅ハ ひとりゝゝを取るのふとれるハるろ
ゝ お宮よろゝ すゝゝひとりゝゝといふふこを俗ニ云ふ
ちゝゝひとりゝといふこを
ろゝゝ

ゝちゝるれきこ死

形きこるゝ濃ホ神のゝるわぢ手バぬギろゝのてゝるゝろゝハきゝん

○ナルホドメチ物ヤ モシロデモメタデモドチブ 恋死ニダ時ニハ

カナレシテ注テ居レタウ涙テ空メテ袖カキツウヌレルデアラウ
ソレタラヌレタラヌギカヘカテラニ夜ルサ服ヲバ着サウスガテ夜ルナ
ライカウタレモ知ルマイホドニ

数しらず　大千世ち

うつくしかさるこそあらめ美ままへ人めどめいとはるるうとび〜さ
○ホンニニハサウモアリソナモノヂヤガ夢ニデ人目ヲバ忍ガレヤウニ見ル
ナ〜ギサワ〜
うぎてかきゝ忍ひのまくれあまもこそ美強をきへまへ人ゆとづめ〜ど
○カギリモナイホドゴウフカ心ニカセテセメテ美ニヨリトモセイダレ

人めをまるハ人目と
いぶりつゝむとゝ

将棋さゝひのよ
ホ〜美すれ〜こ
ことをゝ〜角のう
つくゝるぶれ

テ行テ逢ハウホンニニ通フカクベツノ美ニ通フ所ニデラ人ハ
見ヒガハスマイホトニ
よるもハ美ホありとゝもの主形ト下ま美強をいとあ
ヨ行とうくよるもハいとり。こんハやうへのまこの例
清ねおあ〜。
○美ニハヨモヤスメズニ毎夜セイダレテノ通フテ　タビ〜逢フト
ヌルケレドモソレデモイヅヤチヨツトホンニニ逢ダヤウニハナイ
アヽ美ハヤクニヌヌモヂヤ

待賦ニ急々なるを
とみつゝもこゝろ乱
調せあるとハむずる
そひらん又秋の夕まぐ
ミぐれよるいとせの
山の中されバきこゝみ
おもふとどる見
しとなるうれハと
ら見ドの々気

よみ人しらず

なぞも人めづらしの言なれバ川と見ずぞこえてやらぬね

〇表ニウハ又人ヲ見テハアヽアレハトヒナガラモ人目ヲツヽム心ガ
イツハイチヤニヨツテドウモヨウガアハヌワイ

此の句、とまハといふをと、川よりいひよせたり。

瀬つ淵のちやきんをまかするも人めつゝみのせきとむらん

〇早イ川瀬ノヤウニヤルセモナウ思フ心ヲモテドウモ云フデモア
堤デ川ノ水ヲセキトメルヤウニ人目ヲツヽンデ此ヤウニコラヘ忍ンデ
クルシイメヲスルコトヤラ

かくれぬハ陸泥ニて
草木も生茂りたる泥なり

好推ニかよびへて
此の句にあきまん
ことあり

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

きのとものり

紅の色にハいでじかくれぬの下にかよひて恋ハ死ぬとも

〇三此ヤウニ心ノ内デバカリ思ウテ居テタトヘ恋死ヌルトイフテモ一
色ニハダスマイ

隠沼おあるゝも下ニ通ひてをたゞひの
かくれぬハかくしみよひとハたゞ沼の縁語ばかりにて
いつのことバにて恋の事ハたゞ下におもふとなり。

題しらず

みつね

冬の池に住むにほ鳥のつれもなくそこに通ふと人に志らすれ

六帖ニハ、雪ミぞ
雪気のさむければと
あり
しミつくとハ深
つくなり

○［上］雪町ノ家ヘロガ通フト云フ人ニシラスデハナイゾ
鋳持つれもまくの垣ころし。上の句ハ藤おろしその句乃
ことハ扇よ里ハ低ころびきこえ。つまじまかく八味の下
どうかふ声ニ上ハ見ちさを見え夜よ かの。此詞ハ扇乃
うへのとのこゆく～声の主ふハあづからず。
さくれ雪ふりおく秋霧の夜を寒こえハつくろ色ふあや

○ 鋳ノ巣ヘワタ霧ガ 夜ク寒サニ シミツクヤウニ ワレガ恋心
モ シミツクヤウニハ思フトモテモ 色ニダサウカイ ドノヤウニアツテモ
色ニハダスフデハナイ

音まづふハ声まも
といふ如し だまと
以ふ詞どろくこ声乃
でし

まくへしに
山おろの音羽れ山のおくおくるひとの老をみくころごひめるも

○ ナド意シラウ思ウーテモ［一二］音ニモ人ノ兄ヤウナアリヲセウカ
ーア ソレギツカヒハナイツイ

此声ある人あふくれらねへのとまんやす
きよふのふりやぶ

○［一］［あがれ］ふしぎの流れひるま目を産ぶくてみるめの浦まよるをまちそ
昼ノ間ガ逢ガタサニ［四］夜ルヲサワヒハ待ツワイ
系ハ良ナ文

あくがわハ山のあしハ略
川のとをつう

白川のあくがわ流てゆくすゑ人と名へぞ

○人が問フタラ 一 こレラメトモイハウナレドサウハヲヽイレヤ真実ナ
心底ヂヤカラハイヱデモ未長ウツヽハウトモフ料簡ナレバサ
スレヤソノヤウニナニモ人ニカクスフデハナイ ワサヅ

ことのは

あくがわのくこころハ人ハ知ねどあのをけいえてこだれ人ゆきぞあを

○ナイセウデ バカリ心フテ居レバキツウジュツイニモウワレモイ
ツソウチダレテ 三 たえて こダレウ ソレタラ人自ニカハルデアラウ
カ 必ズタレモトガメテ ヨカルナヤ

一の葉まきのまきハバくるまの絃
のたとゝくこゞれお
あくがわくるゝ

山さちどゝ子ハ桜をきの用山よりのおそゝるゆゑと今ハやふくじとよぶものあり

あくがわと思ひぬてあしゝ引の山たちバなれ色ハ出ぬべし

○ソノガハ思ヒヲ 今ニデハミアトウヤニカウヤラ忍ビカクシテ居ルガ
コレカラモソドウモコタヘラレヌヤウニナツタナラバ 三四 色ニデ人ノ
目ニモカヽルヤウニナルデアラウト心ハレル

ものくしゝ

大々ハ名ハ知ねどもあとこぎ出る人よとをとゝ出ぬべくしゝ

○磯バタハ海松メガスクフリニ 舟ヲ湊カラ沖ヘズツトコギ出シテ
存分ニミルメヲ刈ルヤウニソノガ中ヒ 大ガイナコトノラ モウ名ノ
立ツ二カハズニ世間ハズツトウイ出シテシレハウ 隠レ忍ブ中ハ

ムラヤウニ度ミモアハレヌガ イカニシテモウイコトギヤボトニ
餅材お実よとうこの流コろ〳〵世ハ男女の中をの字
ふ〳〵 忍ぶ中とう色ふよ〳〵れり 又餅材敢の名の
さぐ用かー

平安文

拾よりスゐる人もれき意を後せきあへぬを〳〵ふる〳〵敢

○ソレガ表ヲバ拾ハトリカラモ知ッテ井タフモアラウガ 枕ヨリ外
ニハスト知ハ人モカル タニ 涙ヲドウモエセキトメイデ ツイトリ
ハヅレラモニアレテノチクワイ ハテモ〳〵ツライフヨシダフカノ

拾ハ月ちうきあの
名ヨ中〳〵ちうをよ
ていふ気これ〳〵ハ
いづれあるもれ大方
意とすれバ拾いる
ちう知えきめの
とうふべー

ねまあ〳〵れてとう
ゆう上ハ序あり

この流儀のこゝ〳〵
ふ帖ハ拾の方ハ入
て流ちう後のちう
れ松とありて他共
人まろと表ちう
とうまあやまれり

よこ人〳〵ず

風ハ流ちう峯の松あれや孫まあ〳〵注てまき見ぐ〳〵船ち

○風ガ吹テ浪ノウチヨセル岸ノ松ハ根カアラハレテモノチヤカ ウ表意
モノチモノカシテドウヒラ子ニアラハレテ泣キサウニ見ハル、ドウモ
コタヘラレヌバサカウニタハカリデハ 世ヱニイガ 声ヲアゲテ泣クコラ
子デ天子ニ顕レルトニヨツテサ

此方ハあるう人のいちくうきのあとは人まろ〳〵
池ますゆ名をく〳〵者のあを流ちうをすれ歌れまろり

○池ニ住デアル鳥ノ底ハカクレルトモヘド 水ガ浅サニアラハレテ見エル

ヤウニワヒガ袁モウキ名ノ名ヲ惜ウ名フテ 隨分トカクレ忍ブヤ
ウニスルケレドゼヒモナイコトハ人ガ知タワイ

あふこハ玉のどハうの名のうつまよ〳〵舞の川ハ底つきのごと

○玉ヲツダク緒ハズド細イヒヨイ泛カナ物ヂヤガ いとガ中モ逢
フコトハ玉ノ緒クラ井ウツカナコデ ソレデ名ノ名コハ
吉野川ノ瀧ノ音ノ高イクラ井デ ソレヂヤカライコヂヤワイノ

おく名のたちあ〳〵 家名ハ名ハ名ハ ふとあ〳〵ふとあ〳〵 あくあや

○ 「タビ高名ハ 玉ドウモゼヒガナイ 今ハ月ロヤソテコバブ
イトヌウクレタトテモ ヤクニタウカイ ナラクニタ ヌコチヤ

ことなしぶとハこと
あ〳〵ぶりあく事も
きけりまぶきこと

ハ作ヨ家ガ名トコ
ガふレおあ〳〵〳〵
雲の高ふふくう
ア山ふもとえ
世ふあふあくうを
ううう ふくうえ
うとうつげう

空ふらん 等き
名のうふハあぶえ

あとふ〳〵ふの須おかメまつ〳〵錄打ろう〳〵

家ふより家名ハ名ハ名ハ ふる山ふもうこもふ家ノ

○ 君ユエニワガウキ名ハテウド野ヤ山ノ花ニ霞ガイチメニタツ
ヤウニ上コカラドユニデ知ラヌ人モノイロウニナツタワノ花ニ霞
ノタツハツライモノダチヤガ ウキ名ノユツタモ月ドレコデ世ノモツラ
イコチヤ

花あとくるこの記錄打ふ家ふふふ家ふ〳〵

伊勢

あるとくバ花ごふ花ごふ家ふ〳〵おをちり花〳〵ぬ名の空ふ家ふ〳〵ん

わとかりそのことの
ありてそのこゝろを
をしへりるきそのこゝろ
流ハあしく成篇決る
きろのまあぐ

○ナゾボカクス袁デモ枕ハヨウ知ルトエフ〜ギヤニヨツテ ワレヤ枕
ケハヒバニ 寐タモアラ 誰ガアア知テ ウキ名ガハツトトるウニ立ツ
タフ〜ギヤヤラ 塵コソ空ヘハツトタツモノナレ 塵デモナイウキ名ガ
サニア

頭書古今和歌集巻殘巻第十上

巻之十四

歌〜〜〜〜

よもつ人巻〜〜ず

こゝちけくの沼橋の沼の巻〜〜〜〜

上ハあり〳〵ふとゝえん序ニ
いそのゝくゝるハたゝの山辺那あり中
尼ハそこの中ゝあ
る尼あり

二の方支別集ニ
尼〳〵

佐ゝめき

○ 一二 十二十カ二度モ逢タヿガナクバ此ヤウニ恋シイトハ思ハウカイ
コヒヤウ六ムフ〳〵イニ

恋とゝハバ尼まれ尼ずまゝふゞの根けめ佐ゝしル涙くゝめゝ袖恋

○ 冨士山ノモエルハジヤウチウノコヒデ メヅラシイコモナイガ ワシエオ
ヘノイトサヘイハバ逢テモハイデモ イヅデモフジ山ノヤウニ恋ノ尼
ガモエニス

菱ノたゞめき

伊勢

菱ノだゞ尼めとハゝえゞ朝かゝゝ尼ぶ世もゞ ふそゞゝる多あれゞ

○ ワシヤモウ尼フ人ノ菱ニモ尼ル上ルトハ尼ラレヽイゾ 朝ゝ鏡ヲ尼ル二モ
キツウヤツレタオモカケデ ハヅカシイ身ヂヤニヨツテサ

よゝ人恋ゝず

石ガ世くゝみれ恋ゝ波ゝ立ゝ人リ世くゝゝハ尼あゞゞも世のゝゝ尼

○ 三 ドウゾ又ヒツカヘシテ来テ此通リ手アハウワイ サテモ〳〵ヘ
ノコリオホイコカナ

上ハ序ノあり尼ゝ
ウよゝゝゞ尼ゝふゝあ

女の方ハ尼と月ゝ
あゝゝやゝゝゝゝ朝
ゝゝゝふゝゝ読
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

ゝゝ
尼ゝゝとあゞゝゝゝ
いゝゝゝとゝゝゞゝ
あり

ひろくをとをそくゆくまでゐるあるなとをとり

○ 上ドウヂノ〜ゆフ人ニ存分ニハラヅイ 逢ハレルヤウニシタイ

ゑびすダチハ、飯食の菜、夕食の菜あり、魚類ともなるべし。菜とは言ふ、此のあるべの朝ゆたるとたゞ彩又のことゝ又ゝハひるごとぞ。

とるれり

春霞たなびく山のさくら花見れどもあかぬ君にもあるかな

○ カスミノタナビイテアル山ノ桜花ヲ見ルヤウデ見テモ〜逢テモ〜サテモ〜アアカヌ君ガヤコトカナ

物ろやぶ

ひろうをきハところるきこめよりふとあり

○ 心トニモノハ分リナコヲ名フモノヂヤトサ名ハレル カウシテ金テ居ナガラモヤツハリ恋シイワイ 逢テ居ナガラ恋シカラウズガイ 逢テ居テハ恋シカラツハズハナイニ

凡河内躬恒

うれしさをそんぢなバあらでこそ夜ゆめのうちにあふ

○ 夏ニゲル草モ 冬ハノコラズ枯レルモノヂヤガ ワレガ名ヲ人モ今コソアレ 後ニカヒテ恋ノイテシミウデアラウニ サウスルバカリデンセズニサテモ〜夏ノヤウニ深ク名ハレルコカナ

ある人のいろいろかわ
あるきあくれふちハ
ふくの嚴コあるとと
ニてさとられることと
をめてんハるめるう
んのつぶめあまま

よこ入ーぶし

飛鳥川ふちハ淵ハあるく世あるうともあゆひをめてん人ハ見ぬ世ーデ

○アスカ川ハ淵瀬ガヨウカハルトエスコデ世間ノ人心モソノ通リ物ヂヤトモ

チヂガ タトヒソウヤウナ世中ヂヤトテモ ワシハ一ダビムヒソメテアラウ今ズ

イツマデモ 忘レハスマー

真平ハ附きさらいの高れ二あ人のうさ

あふてふこの葉のこゝろ秋をいろ〳〵ぬれまこあるらん

○当タイ木デモ草デモ 秋ハ色ガカハルモノヤガ 秋ヲコヒテモ 色ヂヤ

カハラヌモノハ ワガオ上ハヲ思ウ上ス此ガ月バカリデカナ ヒラウ 他ノカハ

ルトニスデモ 此ヲガ月バカリハカリハセヌソエ

おぞろ〳〵

歌〳〵ら尽

さむ〳〵ろふ衣ろこ〳〵きこよひや秋をまあらん宇治のさ〳〵姫

○今夜モ帯コトイラ アトニテ上ヘキルモノハ斤一方ヲ三キテ 秋ヲ待テ

生ルデカナヒラウ 宇治ノ橋姫ガサ お受ム〳〵姫の玩いぶ

又もうぶらのたまひめ

秋やこゝ千ぶやゆんけいいさよひふ志の末の板をもさるぶ ねまろう

○君ガクルデアラウカ ワシガ行ウカト ニバラク足合セテ居タデ 戸モ

サヽズミチタワイ

そもいろ〳〵

ムニンといひ〳〵ばくりまち月のあり明け月を待いぞつるかな

○よゝこゝソレハ三ツトニテオコレタバッカリニ此九月ノ末ノ夜ノ長イニ サテ三ツホドニ〳〵 オソイ有明ノ月ガハヤモウ出タワイ

約束モセヒニ夕有明ノ月サヘ待チダレタニ ソレニサ待ツ人ハサテモサテモ来ヌコトカナ コレハ三ツドウシタコツ

よくこゝ人をこゝぶす

月板よ〳〵板よ〳〵ところまつげやらぐこてふまこう待ぐ〳〵まあらぐず

百姓ようぶ富ふ物さきこうとつみ荒ばこちらまはうちろやとよう〳〵

○今夜ハキツウ月ガヨウゴザル月ガヨウゴザル上人ノ所ヘシラセテヤツタラ ソレデハチトゴザレトエテヤルモ月ジヤウチモノヂヤ ドレヤシラセテヤラウ オレモアリヨイ月チヤニヨツテ モシワセモセウカトニタヌデモトイニ

月板よ〳〵よく〳〵ハ月板よ〳〵月板よ〳〵と手まねくタ板を

るとちぶきくるめこ東屋のまやけところもはど板ふ

て東屋の東屋のとりまねこうこてふハこよといふりこ

んとのふよハあ〳〵ぐ〳〵ようをこといふも常ありこんをも

ようこゝ〳〵ろ物ち〳〵 すぐ〳〵此奇 法ほこそ法キ法

一説ナニヌルヽトキハ濃ニスルアリ
和名抄ニ髪ニモ度由比トイフトイヘリ
髪ヒトリヅヽヒヒ結ヒ
もゆひ又ハ束ねるもふ
をもゆふまり

君こそは[注]ぬれ髪もゆぶ[注]ひとりこそ死ぬらめ[注]ぬれ髪おくとこたへ

○君カコヾハイツデモ国ヘモハイルヽイ カウヒヲ外ニ立ツテ髪ハ霜
ガオイヒスデモイヽニハセヌ ヤツハリコヾデ待テ居ヤウ

○宮城野ノ本トライ小萩ノ露ガ重サニ風ノフイテクルノヲ待ツヤウ

二月ワレハ君ヲミウヲイ　本ハ人ハ本ゴヽロノ表ゲナ
ず.あゝく生るゝ花ゆゑ.ちるべきやすしてとふ露の
ちきより.れり.こゝ萩のこゝろ小葉ふ栄ゆゑ露の数はかゝ
本萩ハ人ハ又ハつゆ.くいふ行のこゝろくちびさ

きをいふ人もあるべし.

ある花〳〵今も見てしゞ山ゞうのうきをれ小咲るやまとなでしこ

○アヽ底シイ ヒヾウヅ今モ逢タヒモヅヤ 山中ノ家ノ西ニヨリ咲テアル
ノヤマトナデシコノ花アイラヒイツノコニカ

沖の波れるネハ花もてゞ小ゝろのこそ[注]ま[注]見ん[注]とをのこゝろ

○一ツ[注]ハ[注]ヒホカ[注]ハ花ニハセヌ 冬ハ逢タイ〳〵トソレバカリヲ[注]サ[注]三

ビヤウヂウワヤ[注]ラテ居ルワイ　どこそハあひ[注]ん[注]ハ
まつよハあゝ.どハ小花ゝいふこゝあり.上の花ゝ.
いふをトハひゞくゝ.ゝ.ゝいふと成ゝ.ゝ.

上ハ岸也こまきしの
ハたわの世名こまき
しの名のこわくしの
日本の歌名まいのま
しくく唐とハつけ
こと
おまき高の大和とづ
くるり しくく名上
林泉云ふれくく

高きしのやまとハわくゐ名ひくゐ表こゐまずして意よくもがれ

清くやき

○上 ドウヴアヒナレニ又アウヤウニシタイフガヤ

ぬりやぐ

高くしとハ雅あづけんこと高くんあぬどぐぐぶいふへうりるるか

○高ニイだ三云名ハ メドガツケタフガヤヤラ ソンナハリドホイ名ヨ

イハウヨリハ ナニガナレニ 死メルトサスグニ云タガヨイワイ キツウ高レ

ウ名アトキニハ実ニ死スルヤウナサ

よこ入しくだ

上ハ岸ノ高ノ大河の
四ハ世名ヨホ名ハい
づこホくくも大河の
ゐくりとうくを

ここよし野の大川はべの義ゐこの形こよ名ハくるづこひあやん

○上 トホリニ名フイナラ ロガ此ヤウニコヒタハウカイ トホリノコデ

ハナイワイナ

ゆくこひんあとハとれも名ひあきこころのくくぞあきしりるる

○サイニヨガラカ 後ニハコノヤウニ高ニカラウモノガヤトハ ロモ名ノタニト

ガヤ サイレヨウガ心ノウラナヒガヨウ合タワイナ

天の名ふくくどろくゐ名ありふるうどばさくくるめ りくく

○神ナリトニモハ ヨミオ名レイ 何ノデモタくラタ ケレカノスイキホ

ヒナモノガヤケドド ソレデモ人名ヒアウタ中ヌドトホノケルモノカイ

ソヘカミナリサヘトホノケヘセヌヽナレバ タトヒ伊イカ刀タトテモ ノク
コトデハナイワレヤ

ひき弦ハ河内国月
瀬と云く今の俗
おやきと云ふあり
これ家々にし持ちハ
ひくことをうみ一瓶
絲あうつぐらにくぐ
らも

持ちひきのくつぐら未法ひよこぶやふ人よとめ者ぐ〳〵ん
○ 一二 未テハドウゾこが吐ぎ出ス人ニ名ガ立テ イヤ〳〵トウハサガシ
ゲウナルデアラウ
はくくハおろ人ゆえのくろどれあふろめくねべよの
ひおくるとゐんかすす
反引のまびきの糸とろうえ〳〵とと者ぐくとも流んとあふま
○ タトヒ世間ノウハサハドウヤウニシテゲウゴザリマセウイモ 一二 イツデ

モワタシラ絶ウトハ思ヒデトサリマスチ
ろろ人〳〵とハもろ〳〵つぐきろく たえきれざろこをあひろろ
此ちハ人〳〵よよとてなろりけろと者ん
里人のとハ反弦の者ぐ〳〵くるゆれやく者よあぶろ名やハ
反弦の者れこと〳〵
ぐ〳〵人のひきろぐくと
ゆろ

○ 人ノウハサヲハバカリテ 君ハ一ホイテイクカ 在所デノウハサハ タトヒ
夏ノ弦ノ学ホドニデクトモ オガ逢ズニ居ヤウカ コレカラ上テモアハ
ズニハオクニイ 餘材の流ぶ〳〵 抄ぶきてこず
義系敏行朝臣の家あり 里女
ものひきりてひろつ ろやりけろとばふいまぬろでく雨

[illegible]

て女よろこぶ事よめり

在原業平朝臣

[illegible]

○ワレガコヲ ミンヒヲニ名ヲテ下サルヤラ サウモナイヤラ ソコホドハド
ウモキタヽレガタサニコヨヒノ西アソレヲ考ヘテ見テ ソレデワシガオノ
仕合セ不仕合セモシレルヂヤガ ソノ西ハサ 成ヤウニ殿ヽト大ブリニナリ
マス コレデワシガ不仕合セモシレタヂヤワイナ コノ西デワシガオノ仕
合不仕合ヲ知ルヤウスワケハ アタヽ今ノ孔ノ通リナレ 此西

ガ止ンダナラバ出ガアラウレ ドッスリツッタラバ出ハアルマイヂヤ スル
コノ西ハワシガ身ノ仕合不仕合ノシルベヂヤウサナ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

能宣集ニ云ハ
二月川の國ゼまひく
あさゝをとゝぬさゝ
と今はさゝん

ある女のありひとゝれ朝臣とゝろさぶらめ
きゝとゝ為てよゝてつゝ
よゝ人ゝ
大ぬさのひくてあぬさゝ
○後ノ時ニ大祓ヲアヒタノ人ガ手幣ニ引クヲウニ才二八近イコロ八方
方カラヒツハル所ガ多ウ有タレバ名ヒハスルケレド ワレバドウモオ
ヘヲ教ヘニハヨキ名ヌワイナ
ゝ
ありひとゝれ朝臣
おぬぬさとゝ今はさゝそれ流れてつゝひとゝせ有てふ和歌

○サアロヒハソノヤウニ引クヲ人ガ多イ大ヌサヂヤト 名ニヨツタテラレタレ
ソノ大ヌサハ川ニ流レテハ行クケレド ドコゾデハ流レテヨル所ノ淀ハアルト
云フニ アニヒリソノヤウニ大ヌサヂヤ〳〵ト云テ下サルナ ワレヂヤトテ
未デハトウデヨル所カナウニハサ ソノヨル所ハオ二ハヨリ外ニアロカイノ
ゝず
よゝ人ゝ
淀ノのあやまれ淀やく多ゝ流れとゝ
○スヽノ浦ノアヽノ塩ヲヤク烟ガ風ノツヨサニワキ〻方ヘナビイテイクヤウ
ニワガ多クスモ心ヒモヨラヌ人ノ方ヘナビイテイタワイノ
ゝぶゝ
ゝもふ未あぬゝ
ゝあるあぬれバたゝ

ゑんのもとまでこれ

夜ぶれ形振て表より
表避をもろうて

○オヽハテガ カヅラノアル木ノモ此木ノモハトカヽルヤウニ アチコチトハ
ヒナ丸形ガ方ヽニデヲタレバ ロガ方ヲタヱハナサライデモ ソノタヱヲハ
心ガナノウレシイコトモナイ

誰ヲ思ふ振ばかれ〳〵てうあるくぎ〳〵ごてのとふねるこゝろ名すゝる

○夜中ニアヽ時鳥ガ ツイコヽデ 鳴声ガ丸 イツモトヽル里ハドコ望
カヽラヌガソノ里ヲバ今夜ハトマルノヲ夜明ヽテ メヅラシイコチノ
庭デ森タトヽエル アノヽデナヽ弁デナヽ声ヂヤ

これハ夜ノ時ものあるゝ入るハ誠あるゝ〳〵 夜のさ
ゝとゝてもねゝるまゝ ゝとゝ生えぐゝ 然ゝを

つき学ハ夜よりかゝる
とのつふこのおとりて
紙すゝあり又ゝれとゝ
つゝてあを深ハバ
うゝゝ弁とゝあり

夜のゝを不須ゝるハ、夜ひとあり、夜ものを思ふハ夜の夜と
ゝ此ものをとくぎ〳〵の夜とり、

そ人ハとのゝをよき月ものゝろゝ〳〵人もゝ名あとふゝ〳〵

○イヤモウ人トヽモノハ ロバツカリト モノヂヤ

三 ウリヤイ心ハロト
ハキツイチガヒデサ

いつゝりのかきゝあれりゝバハゝぶのり人の夜月ものゝルゝかゝは

○誰デモロデハ嫌ゝラフフゝテクレルゝド 皆ウソデ フフラ形ヽヽ
ナラヌカ ウソヽコトノヽモイ世ヽデアラウモフ 人ノヽテクレルゝガ ド
ホドウレシイコトデアラウウ

つゆもろくもふるあさぢはらのこがらしに
○ウンヂヤガトハ名ヒナガラモコレニテノ秋ミ忍ヲテノ居ル人ノ
ロヒヤヤツハリソレラ秋ミ忍フテ居ルワイノ　タヒヒ外ニ二コトナ人カ
ツタトテモ　今サラ心ヲウツシテ　誰ラタノミニハセウゾイノ　ロヒヤ
トウトサウ云心ハナイ

恵性法師

ちぐさとちりぬるとよう
つゆもろくこそ云ふなれ秋
風とあらそはちりぬる
ちるぞ〳〵悲しき秋の
つれなきあきぞくろろ
ふるあさぢはら

秋風ヲ山のこなたにもろ〳〵人のこゝろもいかゞこそあり
○ヒゴロノ秋ノ風ニ山ノ木ノ葉ノ色ガカハツテチツテイクヲ見レバ人ノ
心モ〳〵ウツリウツロカハリハスル〳〵ヒトツカ二忍ハリ、

六條よ院御ん上
うんこあり

時の下ゑ実ハうきしれなつこゝろもうきくもやく人のあくとをりへ〳〵

宗牧

○蟬ノナク声ヲキケバモウオツリノ秋ガ近イ〳〵ヒヘ秋ミ忍フ人ノ心モ
秋風ガタツテ心ザシガ此節ノ夏衣チウニウスウナルデアラウカト
心フツテカナシイワイノ　餘村あぬりぐ〳〵〳〵夏衣とゆ人
き時の羽衣はゝ緑をうるぐ〳〵ぐうすくさいたん新の松原
のうるあり　赤実花二の白ゆきもたん

影しらぬ

宗牧

うつせみハ現世の人ゝ之冠辞ゝ

うつせみよりあとの名ぞなるべき

○ 一 世間ノ人ノウワサガトヾヂバ ワレヲ忘レハセヌナガラ オヾガライホノク

ヂデアラウト思ハル、 又人ヲワスレハセヌナガラ オヾガライホノクヂノアラウ

ト思ハル、

あうぎこそ思ハるれを

だまり

あうぎこそ思ハるれを

だまり

○ 思フ中ニハ タガヒニアキノコヌ文チニサ ハナレテヒハウチヂヤ ドウシテモ

タレウナレバ アキノクルナラヒナバ セメテ今ハタガヒアカヌトコロヲチリ氏

後ニ思ヒダレグサニシテサ ハヤアキガキテカラハナレテハ 何ノミモ思ヒダ

シレグサモナイワサテ 俳諧ニ思ふこゝろの流ところ

思ふ事ニ成ルとも思ふこゝろのつくゝ思ふあり〳〵ハ思ふまゝ思ふ事ハ

○ コチノ思フヤウニモナイ人ヲ思フテハヤウニ心ヲ苦シメウヨリハ 又ハレテシ

ハヾヲト思ヘバ 又ドウサラ心ボソウカツテ 今ハデヨリハナホキツウカナレイ

サウ思フ心ガツクカラシテ ハヤ〳〵ハヤウニカナレウテハ トモワスレテシ

ハルヿデハナイ 子秋三月ハ

この句ハつくゝ

わすれ草ハ子秋三月ハ

この句ハつくゝ

○ ワスレテシハウト思フガ必ズオレテ恨ムヿヨ 時雨ノ秋ニナラヌサキニ

早ウドコカ イニデレウヤウニ オレモ人ノ秋風ニハアハウトハ思ハヌ

子秋三月ハ

この句ハつくゝ

たゝえびやく飛者の川せゞどゝまゞんあるゝやゝ人のおもしたん

○タエズ流レテツヒニヨドンダイチイ　弐飛島川ノヨドンダヤウニ　オガモシタツ〳〵サレツカ今テモアツテ通ヌヨ〳〵ガアツタラ　ナンゾ心ニレナイアルヤウニカノ人ガ石ブデカナヤラウ

此の白一本ヨんあるゝやゝあるゝあつきく畠ゝまろ

ゞんあるゝでゝやのゝごりゞれおちゝるゝ形〳〵ゝとゝるゝまゝゝと

ゝまゝるゝあるゝゝゝ此ゝ高ゝあるゝきゝすゞゝゝあれバ必ゝあるゝゞゞし高

高ゝのゝあれ何ゝゝるゝ者ゝあるゝゝゝとゝゝゝ此ゝ流ゝゝゝの流ゝ

此高ゝあるゝ人ゝのゝゝゝ〳〵ゝあるゝゝゝこゝのゝあつゝま人ゝゞあるゝ

やゝき八流ゝのゝよゝゝゝ

ゝゝゝ

ハシヤ　カ心ハ浅イアダ浪ガヤ

もろ人こゝろ

○ 一二 サイヨカラ深ウ思ヒメタ心ヲドチラガヤウタトフロスヒヨウ

ロキヤ　イヤ、デモ　忘レルコトデハナイ

ぬきちらの古方に

こゝろのくれ　あぶなげずすり　誰の為ぶこゝろ人とも　都あるまくよく

○ 一三 タレヨリ外ハ心ヲチラサウゾ　オ二ヘヨリ外ニ心ヲチラスロニ

ナイゾヒ　あぶなげずの流　影法師ろ〜　おなじろ〜

もろ人こゝろ

あぶよりのくふやまろ　ぬらせまあぶく　淵茅の色とふ彩ら

○ ロハコレホド二深ウ思フニダ此ウヘヨードウヒイースイデ　三四 人ハ心

ガリシタターゾ　コレホドニ思フ此ウヘハモウドウモ　ニヤウガナイ

ちぐのいろふうろぶらめど　ちくるくふ〜　林の紅葉ふかうふを

○ 人ハ心ハ　ナヤコヤイロ〜ニウルデエラウケド　心ハ紅葉ノヤウ

三色ノ見エルモノデハナイ　ウロウノガレヌ

錆材ヒドめの流ロろ〜　あゾまろ〜

小野小町

はるかハ人の家すまゝ
ちらんとゝらとさまひ
おこゝろ〳〵ゝヌハゝゞ
てよゝゝくよあくす
ゝゞ〳〵

わ田のすむ里れ志ゝゞふわゝゝくふうゝゝんとめゝ人のゝふゝん

○海辺ノアヽゝ久ゝ里ノ案内者ニコソ　浦ヲヌヤウイハ云ヒハズノコトレ

ソレハソンナ浦ノ案内者ゝモナイニドウスコーデ　ウラミヲ云ヒウ

ラミヲ云ウヒハツカリヒタモノ人ノイフコヤラ

あもつけのをもむね

ゝゝゝ日の新ゝ〳〵おれゝ家形ゑバめゝゝ足ゝね身をバゝゝ

○ソラノクモツタ日ニハ人ノ影ノアツテモアエヌヤウナモノデソレト目ニ見エコ

ソセヲ　ソレ云ヒヤセホンツテ　ロヤウ影ノハウニヲハホードゝフコナレ

バ人ノ影ノ身ヲハナヒヌヤウニ　心ハヒヤウモ　ゝつ人ノ身ヲバナレハヤヌ

こめゝゝハ人の方より
ヨゝゞ二ゝゝの名れゝ
ゝゝよゝひおゝもゝ
用のこゝゝあゝゞ

あゝもゝあハゝ長
あゝ
これよゝ下ゝゝゝ
ゝゝゝりて長ゝゝゝ

色ゝあゝゝゝとゝすゝゝゝ

かげろふのそれとあらぬ雨のふる人まれば袖ぞぬれこけふ

○ 一 サウカサウデハナイカ モウスワスレタラニ井チヤ サテヤ〳〵 三 冬

ウアハナゼダスヲカルヒバ イゼンノ一ガ忘ヒダサレテノ 涙ガサコボレル

四の句ハ帖あくこ影服本ふ人見れバとあるぞまろ〳〵き

ゆ〳〵ぬれ玉ぬ集のふれ〳〵みとるとは恨うら〳〵語ばるこみと

ありこをでたるあ〳〵を舟こぎうろ月ぐ人まや恵海りゆん

○ 堀江ヲ往来スル小船ノ イクニダモ月ゴ川筋ヲ手リスルヤウニ

ワレハ二人方ノ日ゴ人ヲ 又タキドリノ〳〵 ヒヤウニイツニデコヒニタウ一

ヤラ

二の句ハ拾ふこゝやづく〳〵分りなる女ネ

ひきく〳〵あるそれ

ゆ〳〵ふ舟ハ人の棚

知きあり

伊勢

ゆくつゝこゝあれゆ〳〵こゝをうきふるふ〳〵ぐ袖や沾とうれるん

○ ワガ床ハ久シウウチタエテタヅラ人ト逢テ寝タ一モナイユエ カナシサ

三涙ハ海ノヤウデ ソノ海ノアレルヤウニアレテ三ウタ床ヂヤニ 久シフリテ

又今サラ ソノ人ニ逢フヂヤ上テ ソノ床ノツモツタ塵ヲ 袖デハラウタナラ

海ハ涙ノウクヤウニワガ袖ガ涙ニウクデアラウ

つゝ拾き

ソノ一ツヨ程ニ立ツ人ハ〳〵ひ〳〵きこゝとふあの日手ヲ手ヲ

○ 今デモヤハリ昔ニ五カ人ッテ一人ガ恋レイ サテモ〳〵物ワスレ

セヌ ガナ ドウゾ ムヤウニ 意ミイテ ニ物ワスレヲシテ ヘヘタノ人ヲバドウ
ゾ忘レテシヘハイデ
人とゝのびまあひまありてゆひがくあるなまバろの
家のあるうをあるうあるきくるをとうふ屋のまくを
きくゝゝよるて法ろのゝゝるる
大きものろゝ
ゆひいでゝ喜ゝまきゝハ初ろけ物そまろうと人あるるめや
○ゆヒダシテ喜ビイキハ アノ雁ノ鳴テワタルヤウニ 私モ式トホリニ門カド
ヲ法テトホルトヲコヲ コノ家内ノ名フ人ハ知ウカヤ カウヂヤトハシリ

あら人云ゆるとろる
ハはまるとそてそのあれのあろうをまるを
うりするのあり

保ずありよろうとハ
ソムしくハ女の方へむ
ニてるるめいきそ性
しあり

ハスヘイ
あのおあいまうち名すあ保ろうまるバのむうゝおこ
せろうけるみどるをとうあつめるくろすとてよるて
おろうるる
典侍義宗よりろうの朝臣
あのめこうゝろのまふをハスゝとん彩子ろるればおきごろ形ゝ
○コレニテイロハト未タノモ氏ウニ オツヒツテ下サレタル名ドモ、モウ
ロモドシヤレニセウゾ ワタシガ身ガコノヤウニ ナカレテシマウ タバ今
デハモウ上ウナ名チドハ ムガミハオギ上ガゴザリ セヌ
ろうれぞハやろさるまバくありなれバとハ異あり。

七月廿八日の北島

北東ニ当ル厳ト云フ所

能有ル事也この辺

ハ人住無き所の事

ゆゑ深谷有り

初めのうちハ

がけのごとく

ま誘ひ有海へ

出る物以注ス

今ハてゝすとの八ひろひあまりくおのゞものゝ形ちとやうん

○モウハトステカヘシすコサレタハ多ヨ ヒロウテトツテオイテ モト自分ノ

物ナガラモ イタノ形見ギヤト ゆフテ見ヘヒロウカイ

ゑ〜〜〜〜〜

あるうれ報告

玉ゴの石ハつねゆもまどゝるん人ゴろふとも多ろとゆふん

○オヽヘハ今デハ 毎夜少通ヒナカル ツガ外ニアリギヤガ タヽ〜〜今夜

コレハ出下サレタハ 言メテ道ヲトリチガヘナツタデアラウチヤ

ケレモ コノウヘトテモ イツデモコヨヒヤウニドウ ゆラトリチガヘテハ

出下リバヨコリリエ ソレタラ余ノ人ノ所ヘハ出ナカノデモ 実ニヌ

ルガ所ヘハ出下サレタノカトゆヒ〜ヒウ ゆサテ

ゆとゝ人〜〜〜〜

まてとゝいすゞゆてもゆろゆん ゆひてゆく 的の見えれ人のゝゝ橋

○一アレバラクトヤスカラニハ コヨヒハ ト〜ツテモインデトサレカシ ソレニテンゾ

ヤトリ〜ツイデ トツカハ トイナミヒルハ サテモ〜キコエヽセヌ カウシテ

アリモギツテイナヒヤルヘ アノオ人ノ馬ノ足ラウヅカシテ コウサシテ

クレイ門ノ前ナ溝ノ橋ヨコリヤ

1.さる者ある ゆゝさて

此ゝ 俗語の数あり。

[illegible]

中納言源のぶつなの卿のあふこのすけ[illegible]

ふきてゝ[illegible]

閑院

おほさかのゆふつけどりもあふぐるにあらぬ[illegible]

○ワガタモおほさかの関ニハナレテアル庭鳥ナレバナキ〳〵モセメテハオ

〳〵ヘノを江ハ通ヒナルノヲチリ[illegible]ヤウナレ いとハサウニテハ往

来ナルノヲ見ルコトサヘナラヌガカナシイワイノ

伊勢

歌〳〵

あるさまあらぬあらぬ[illegible]

○故郷コソアテハユルモノナレ ワレガ[illegible]人ハ故ニデスナリトモ

ワガタメニハ[illegible]ウニアレテウトクシウナリタハドウスルヤラ

解脱ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

山ざくらのうまれかはりてうまれこんも[illegible]

寵

○上 ムラ人ノ所カラハ下タリ人ハ交ニ[illegible]ハテドモ[illegible]ガ方ヘト

ニシハチカラコトツテモナイ 上白ハ[illegible]の序ノ

さろのひとざね

大ぞうゝ八幡〳〵き人のうゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○空ハ 高キ人形見タイ カタ〳〵デモナ〳〵デモナイニ ドウスコトデ
高シフ名フタビトゴト上ニ コノヤウニナガ〳〵ルコヤ
よそ人あらぐず
あふまでは久くこゝろも永ハ何のやんよ足〳〵くもんのなぶさ多形くふ
○又アフニデノ形見ノモノモ ナニセウゾ ヤクニタ〳〵又ハガヤ コレヲ
見テモオ六ハ 高シウ名フ心ガ 子エカラヤス一ルコモナイ
おやのまどろ(ツ)ハ(ハ)のむまるふいとしのびまわひく
おらいひろあひぐこまおやのよぶとのひれまバいろぎく(きつかれよ)
久ゝとてもとふんぬぎおきてのやまるよりろこの好ヒ

源氏おろ〳〵の考くまろ法多ゞ〳〵あ〳〵ぬ
ものろくけ〳〵うとう
ゆろもどころゞ〳〵わ
よりそ 当藤ノまよ
まろゞとまもてのろこ

とゝすゝ〳〵あ〳〵ろ おきてゞ
あふまでのゆゝゝゝゝゝゝとゞめ名名減よろぶもゞあ〳〵名ノ
○コノ裏ヲコシテオカシヤウ名ハ 定メテハ逢マデノ形見ニスルコト
イフルベデコノゴザラウガ コレラ見ハバ オモヘノフガ忍ビダサレテ 涙
ガナガレテサ 海ノ浪ニシク涙胃ノ(モグ)ウシニ涙ニタ裏チヤワイノ
影〳〵ゞ
ゆゝゝこゝろ 今ハあゝふれ(ル)ま(ま)ろく〳〵忘ろ(ル)時ちあ〳〵ま〳〵ま
○形見ハサ ケツノ今デハモウ ニクイカタキチヤワイノ コヒガナクハ
ヲリハ又ワスレテ井ルトキモアラウノ物ヲ コノ形見ガアルユヘ ハニ

ハカヒガヒ〳〵シバシノミモワスレラレヌ

頭書古今和歌集臺撰卷第十七